

いま何が問われているか

座談会 ‘地区大会のあり方について考える’

会員は楽しさを求めてやってくる
形式に過ぎたり 豪華である必要はない
地区大会の姿を 根本的に見直す時がきた

□ 出席者

R I 理事 **伊藤 恭一** (大阪)

元R I 理事 **松平 一郎** (東京
日本橋)

パストガバナー **平島健次郎** (神戸)

(順不同)

平島 最近の地区大会をみると、一種のレディメードのような形になっていて、あまり独自のプランがない感じがするのです。そのうえ、時間や形式にとられ過ぎて、非常にロスが多いのではないかと。内容の密度となれば、むしろ昔のほうがよかったという気がしないでもありません。地区大会のあり方を、もう一度ここで見直してみる必要があると思います。そこで、会長代理として国の内外にわたって、多くの地区大会を見てこられたご両氏から、ご感想なりご意見なりを承り、今後の参考にさせていただきます。それがきょうの主眼でございます。つまり、どうしたら現在の日本の実状に合った、魅力ある地区大会にすることができるか、それにつきると思います。伊藤さんは最近、外国の地区大会にもよく出席されているようですが、

□ プログラムは日本と同じようでも……

伊藤 いえ、松平さんや竹田さんのように多くはないですが、この間、カリフォルニアとネバダにまたがる地区の大会に出させていただきました。感じましたのは、スピーチのあとは討

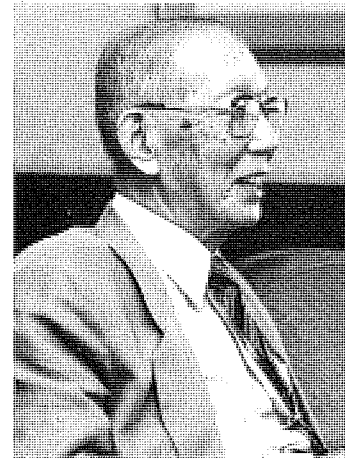
論があったりしますが、その時のスピーカーはぜんぶその地区や近隣地区のPGがつとめていて大変にポテンシャルが高いということです。また、すべての会合は昼食か朝食から始まりますので、食事でありつくためにも、登録者は一応全員出席せざるを得ない仕組みになっているのです。会場等も夜8時から、ショーができるシアターなども使用されています。会議では、発言者が指名されてから席を立つのではなくてあらかじめ順番がわかっているのです。マイクのうしろに行って待っているわけです。日本ですと、呼ばれて、初めてマイクまで歩いて行くのでその間、だらだらした時間が流れます。

そんなわけで、プログラムを読んだだけでは日本とそう違いはないと思いますのに、同じ9時間でも大変に密度の高いものになっていると感じました。

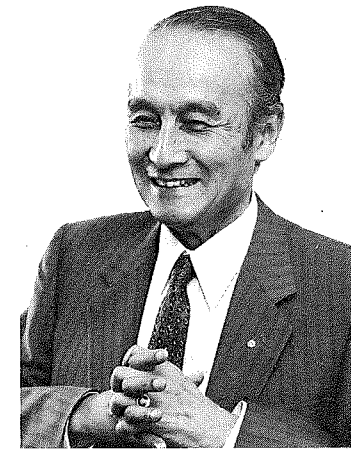
それに、日本の地区大会では必ず行なわれる決議はありませんでした。R Iの「地区ガバナー必携」には決議制度について書いていますが日本では会長・幹事会で審議され、本会議で決議する運びになります。空々しい感じが致しますね。

□ Get together でみんなが仲良く

松平 アメリカの地区大会には出たことはありませんので、英国とフィンランドの場合をお話したいと思います。英国はR I B Iという管理組織なので、参考にはならないのですが、大きくはR Iと同じで、細かくは、都合のいいように別のルールでやっています。R I B Iの規則では、国内であれば地区大会をどこでも開くことができるため、普通、個人的には行きに



平島健次郎君



伊藤 恭一君



松平 一郎君

くい名所保養地などを選ぶことが多く、地区大会に出席した人たちが、その場でもう来年の大会のことを話題にするくらい楽しみにしているんです。ですから大会中、夫婦で家を留守にしてもよいよう、万端準備して来るので大会途中で帰る人は全然といっていいほどいません。2日間に9時間はロータリーの勉強をしなくてはならないとか、いろいろ規則がやかましいですが、R I B Iでは、講演や部門別の協議会のようなものはあっても、あまりウエートがかかっていないようで、むしろ、多くの友人をつくりまた旧友と共に3日間を底抜けに楽しむといった雰囲気ですね。そこで、あまり勉強しないと誤解されては困る感じたのか「この大会は遊んでばかりいるように思われるかもしれないが、決してそうではないのです。ふだん、勉強する時はしているの大会ではひと通りのことは簡単にやるけれども、あまり難しい話はしないようにして、とにかくGet togetherで仲良くなることに重きを置いてやっている」と説明してくれました。

最初の晩は、日本でいえばフォークダンスで夜半まで踊る。服装は思いおもいの、自由で気まま、みんなくだけで、踊る相手も次々と変えだれとでも知らない人とでも、ほんとうに愉快そうにやっている。2日目の晩は一転してガバナー主催のフォーマルなディナーとダンスとなり、男はブラックタイ(タキシード)、女も相応の服装です。プログラムには、服装の欄があって、この日はカジュアルとかブラックタイとか、ダークスーツとか服装が指定されます。これはアメリカもそうでしょう。特徴的なのは

ディナーなどで地元の市長が大きな役割をしていることです。市長夫妻で出席して主人役をつとめるのですが、参加者もロードメーヤーのディナーだといって、大変に名誉に思います。町の人たちも閑散期なので非常に歓迎します。それは、ふだんから市長みずから、20数カ所ある地区ガバナーに対し、オフ・シーズンに大会開催の勧誘状を出して積極的に誘致していますのでその点、地域とロータリーの結び付きが非常にうまくいっていると感じました。

□ 一方通行では盛り上がらない

平島 いま、おっしゃるように、日本では地区大会に対して弾んだ気持ちがない。どうも冷めてしまっている。外国と違って、一方通行になっているからでしょう。大会は次々と演出されていくのですが、一般のフロアから反響が出て交流が生まれる、ということにならない。講演がある、パネルディスカッションがあるといっても、それはステージの上の一方通行でフロアとの交流が、特に最近の大会においてなくなっているように思います。ことに、戦前のようにグループディスカッションもありませんし、これは一つには参加者が多くなって、その場所がないということもあるでしょうが、結局、全体会議の形でパネルディスカッションでお茶をにどすということになりがちですが、登録1500人とか2000人といっても、実際に出てるのはその半分もない。地元のクラブは、とにかく100パーセント登録にもっていく。それくらいにしないと会計上、バランスが取れにくい、ということもあると思いますが、無理しても人を集めるとなると、お金だけ出して寄りつかなくなる

そういう悪循環がみられます。

松平 日本は、お祭りを大事にする国ですから、それはロータリーでも必要で、年に1日か2日はお祭りさわぎで、わっしょい、わっしょいやって発散する。9時間は勉強しなくてはならないというわけで窮屈な思いをさせるだけではいけない。何か、ワーッとした気分を出す。ただ、お金をかけないで楽しさが出せるようにしたいですね。難しいことですが。

そこで、開催場所が条件の一つになる。分割された地区では、越境例会をやりますが、地区大会等もアトラティブな所にすれば、相当、参加するのでは。それにはどうしても地区内で開催しなければというものでないでしょう。

伊藤 大阪の場合、たとえば、ロイヤルホテルでやりますと、神戸の自宅まで夜だと車で30分で帰れる。ですから、泊まり込む人も少ないですね。ホテル代が高いせいもありますが、松平さんがいわれるように、リゾートホテルですと、オフ・シーズンでしたら割安になりますから、交通費は若干かかるでしょうが、そのほうがいい。そうすれば、夜も会長歓迎会や親睦会がゆっくりできる。踊れる若い人も多くなっていますし、楽しさが増してくるでしょう。

服装のことを、松平さんがお話されましたがそれで思い出したのは、アメリカの519地区に参りまして、2日目の夜、ウェスタン・バーベキューだから軽装でといわれ、私も女房も家で着ているジーンズで参加しましたら、えらく喜ばれましたね。やはり、うちとけた雰囲気になるからでしょう。

□ 食事が質素でも喜ばれる雰囲気

平島 熱海、別府や有馬温泉なんかもそうですが、相当な収容能力をもつようになりましたね。そういう所で、一度やってみてはと提案するのですが、なかなか実現に至らない。登録費の全国平均はいま1万5000円位としますか。2万円だと、ちょっと高い。それで1万5000円にしている地区が多いのですが、これでは大会ができないので、地区内一般会員は大会分担金を払うことになる。これは、大会に出る出ないに関係なく、私のほうは1人6000円です。先ほども出ましたように、登録者の半分も出ていま

せんが、コストは登録費の倍位かかっているのではないか。そうすれば、そんなに無理しなくても、もう少し面白いことができるんじゃないかという気がします。

熱海あたりは、1000人位はできる所もあるんじゃないでしょうか。年中、小じんまりやるというのもどうかと思います。それに、最近、合同地区大会が非常に少なくなっているのでは。たとえば、264・265・266・268地区でしたら、3年か4年に1度は大阪か京都か神戸で大々的に開いて、他の年はあまり金をかけないで手づくりの大会にするとか、そうすれば盛り上がりも出てくるでしょう。

松平 英国はそうですね。東京や大阪は大きなホテルができましたからできます。でも、いっさいがっさい、そのホテルの中でやるとなると、どうも。

伊藤 そういのはあまり…、ホテルのほうも喜びませんし。

平島 去年、伊藤さんが会長代理でお出になった258地区の地区大会、江戸川区の区長さんが大変力を入れておられて、提灯やすだれなどのいろんな江戸前の店が出て、あれは面白かったですね。大沢さんが上手に演出したからでしょうが、一つのやり方ですね。

たいていの地区には、温泉もあるでしょうから、一晩泊まってゆっくりやるのもいいんじゃないでしょうか。

松平 オフ・シーズンにやれば、宣伝にもなるから、土地の人達にも歓迎されますし、ロータリーへの理解も地域に広がることになりま

すね。平島 それから、大会でいちばん金がかかるのは、何といても食事代です。結局、最近の傾向としては、希望晩さん会となって、晩さん会だけ別にしてしまう。晩さん会の費用が登録料に匹敵するくらいになるから。

松平 英国では、2晩泊まって、食事から何から入れて、登録料が12ポンドと安い、ちょっと前のことですが。食事は、ほんとにお粗末なものです。だれも文句をいわないし、皆んなこう盛り上がっていますから、雰囲気を楽しむということでしょうね。

□ 形式にとらわれず、費用をかけ過ぎず

平島 日本の場合、知事や市長が出席して祝詞を述べるならともかく、代読なんかでは、ただ形式的で時間の無駄です。そのほかにも、なくてもいいご挨拶が多い。それよりも聞きたいのは、四大奉仕や拡大、財団等の活動ぶりの報告です。うちの地区はこうしようと呼びかけがあってもいい。余興にしても、100万円位はすぐかかってしまうから、無理してまでやることもないと思います。

松平 フィンランドの地区大会では、万事が家族的で物静かでした。専門家による余興はなかったですね。そのかわり、全体会議の際に地元の生徒がステージの上でコーラスを聞かせてくれました。日本から会長代理がきたというので、「さくらさくら」その他を歌ってくれたのには感激しました。全体として肩のこらない大会で、根底に親日感があることを感じました。

伊藤 あまり言いたくないですが、日本では来賓などへの記念品が、だんだん派手になっているように感じます。隣の地区でやったから、うちもこうしなければ、となるでしょうが、結局は会員一人一人にはね返ってくるわけで、これは考え直してほしいことのひとつです。それと大会の立派な記録誌ですね。外国では、ああい

うことはしないので、びっくりしますね。

平島 大会案内書にしても、随分立派なものをつくっていますが、一考を要しますね。

松平 先ほどもふれましたが、どうしても地区内で開催しなければならんということもないわけでしょう。

平島 そうなんです。いけないとは書かれていませんから、それは可能です。

伊藤 R I の承認を取ればいいわけです。いづれにせよ、現在のようなやり方のままですと皆さん登録さえしなくなってしまう。ですからこの辺で、思い切った発想の転換をして、革新的な地区大会を考えなければなりません。それから、剰余金が出たら、ぜひともポリオ・プラスやロータリー財団などにまわしてほしいものです。

平島 地区大会のあり方として、このままでいいのか、という観点からお話いただきましたが、そのすべてにふれるのは、きょうの座談会だけでは時間が足りません。しかしひとりで結論づけると、形式ばらずに、費用をかけ過ぎずに心の通った地区大会、中味で勝負ということになりましようか。どうか、各地区におかれては、楽しさの湧き出てくるような地区大会を計画していただくよう念願するしだいです。